

# 精神保健福祉センター一所報

平成29年度

奈良県精神保健福祉センター

# 目 次

1	職 員	2
2	精神保健福祉相談	2
3	教 育 研 修	3
4	技 術 支 援	4
5	精神医療審査会事務	5
6	精神障害者保健福祉手帳 及び自立支援医療(精神通院)の判定	6
7	自殺対策事業	7
8	薬物依存対策	11
9	調 査 研 究	12

# 1 職 員

平成30年3月31日現在

職 種 区 分	医 師	事 務	精神保 健福祉 相談員	心 理 判 定 員	電 話 相 談 員	保 健 師	合 計
職 員	2 [内兼務1]	4 (2)	2	1	(1)	1	10 (3)

\* ( ) は日々雇用職員

## 2 精神保健福祉相談

精神保健福祉センターでは、電話や面接による精神保健福祉及び精神障害者福祉に関する相談及び支援を実施しています。

平成29年度における精神保健福祉相談実績延べ件数は、表1から表7のとおりです。

表1 相談内訳

	件数	%
所内相談	15	8.6
電話相談	160	91.4
計	175	100.0

表2 利用状況

	件数	%
新規	161	92.0
継続	14	8.0
計	175	100.0

表3 相談者

	件数	%
本人	68	38.9
家族	97	55.4
本人・その他	1	0.6
その他	9	5.1
計	175	100.0

表4 相談経路

	件数	%
医療機関	3	1.7
保健所	0	0.0
市町村	2	1.1
関係機関	14	8.0
センターホームページ	46	26.3
広報	2	1.1
一般情報	29	16.6
その他不明	79	45.1
計	175	100.0

表5 年齢別・性別

年齢	男		女		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%
10歳未満	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10～19歳	4	4.3	3	3.6	0	0.0
20～29歳	11	12.0	5	6.0	0	0.0
30～39歳	15	16.3	10	12.0	0	0.0
40～49歳	10	10.9	4	4.8	0	0.0
50～59歳	8	8.7	5	6.0	0	0.0
60～69歳	10	10.9	7	8.4	0	0.0
70歳以上	7	7.6	4	4.8	0	0.0
不明	27	29.3	45	54.2	0	0.0
計	92	100.0	83	100.0	0	0.0

表6 相談内容

	件数	%
精神疾患に関すること	49	28.0
うつ病、うつ状態に関すること	25	14.3
アルコールに関すること	34	19.4
薬物依存に関すること	13	7.4
老人性疾患に関すること	3	1.7
児童・思春期に関すること	6	3.4
発達障害に関すること	6	3.4
心の健康づくりに関すること	8	4.6
社会復帰に関すること	0	0.0
社会的ひきこもりに関すること	3	1.7
その他	28	16.0
計	175	100.0

表7 対応内容

	件数	%
傾聴・助言	114	65.1
情報提供	48	27.4
他機関紹介	6	3.4
センター来所予約	7	4.0
計	175	100.0

### 3 教育研修

県内関係諸機関の精神保健福祉業務に従事する各職種に対して、精神保健福祉に関する専門的知識と技術向上を図るため、研修会及び連絡会議等を開催しています。

#### ① 精神保健福祉業務従事者研修会

精神保健福祉相談業務を担う主に従事年数が少ない職員を対象に、精神疾患や精神保健福祉相談の基礎を学び、精神障害者や家族等に対して人権に配慮した精神保健福祉相談業務を行えるよう研修会を開催。

	内 容	開 催 日	参加人数	対 象
第1回	講義：「精神保健福祉相談の進め方」 講師：学校法人桃山学院大学 桃山学院大学 社会学部 社会福祉学科 教授 辻井 誠人 氏	平成29年6月2日	64名	精神保健福祉専門職（保健、医療、福祉、行政職員等）
第2回	講義：「精神疾患の基礎的な知識とその対応」 講師：奈良県精神保健福祉センター 嘱託医 吉岡 玲	平成29年6月19日	69名	精神保健福祉専門職（保健、医療、福祉、行政職員等）

#### ② 依存症に関する研修会

精神保健医療福祉関係職員が、依存症を抱える人の心理を正しく理解し、行動変容を高める相談支援技術を習得することにより、依存症者の早期の回復をめざすことを目的に開催。

内 容	開 催 日	参加人数	対 象
体験発表：奈良県断酒連合会会員 講義：「依存症を抱える人の心理の理解と支援」 講師：三重県立こころの医療センター 診療部次長 長 徹二 氏 事業案内：「薬物依存症回復プログラム 『しかーぶ』について」 当センター 伊東千絵子	平成30年1月24日	50名	精神保健福祉専門職（保健、医療、福祉、行政職員等）

#### ③ DPAT 研修会

県関係職員がDPATの活動理念と活動の実際を理解し、発災時にDPAT調整本部や活動拠点本部で的確かつ円滑な活動に資することを目的に研修会を実施。さらに東日本大震災や紀伊半島大水害の経験をふまえ、災害時の精神保健福祉活動について共通理解を図った。

内 容	講 師	開催日	参加人数	対 象
1. DPATの設立経緯について 2. 奈良県のこれまでの災害支援とDPAT整備の進捗状況について 3. DPATの活動の意義（指揮系統等について） 4. ロジスティクスについて 5. これまでの災害支援の経験から（事前アンケートまとめ） 6. 紀伊半島大水害をふりかえる 7. 演習（紀伊半島大水害事例をDPAT活動としてやってみよう） 8. 講評	伊東千絵子（当センター） 村田 清（県保健予防課） 盛本 翼（奈良医大・DPAT統括者） 松岡宏司（当センター） 三木洋子（当センター） 家元繁樹（中和保健所） 小坂 淳（当センター）	平成30年 3月22日	24名	保健所職員（医師・事務職・保健師・精神保健福祉相談員）

## 4 技術支援

### ① 事例検討会

精神保健福祉に関する知識・援助技術の向上を図るとともに、精神障害者の地域生活支援の課題を明確にし、課題解決のための具体的な方法の糸口を見いだすこと、さらに関係機関の役割を相互理解し、支援者間のネットワークを強化することを目的に実施。

内 容	開催日	参加人数	担当職種
事例1：キーパーソンがいない独居のアルコール依存症男性への介入・支援方法 事例2：飲酒をして問題行動を起こし、支援者に依存するケースに対する支援について	平成29年 8月10日	11名	医師 精神保健福祉相談員
事例：「病識のない被害妄想が強い方とその家族への支援について」	平成29年 9月14日	10名	医師 精神保健福祉相談員
事例：産後うつ診断があるが、通院・服薬等の治療の拒否をする方の母子支援について ミニ講座：「産後うつとその対応」	平成29年 10月12日	20名	医師 心理判定員
事例1：頻繁に自身のしんどさや希死念慮を訴えるうつ病の母子支援について 事例2：医療保護入院をした解離性障害のある特定妊婦の支援について	平成29年 12月14日	15人	医師 精神保健福祉相談員

### ② 講師派遣

関係機関からの依頼により、関係機関職員を対象とした研修会及び講演会などへ講師派遣を行いました。

講 座 名	主催者	開催日	担当職種
ゲートキーパー研修	保健研究センター	平成29年 9月20日	医師・心理士
保護司向け研修	保護観察所	平成29年 11月17日	医師
教員向け研修	明日香養護学校	平成29年 12月4日	医師
保健指導実施者向け研修	健康づくり推進課	平成30年 1月26日	医師・精神保健福祉士

### ③ 対面支援

5件（関係機関）

（対象機関で処遇しているケースについて面接相談したもの）

### ④ 電話コンサルテーション

7件（市町村）

（対象機関の職員からの電話による相談）

### ⑤ 個別コンサルテーション

4件（市町村）

（対象機関の職員が来所、又は当方から出向くことによる相談）

### ⑥ 組織支援

地域精神保健福祉活動の一環として、下記のとおり専門的立場からの支援を行いました。

組 織 名	支援件数
奈良県精神障害者家族会連合会	1回
アルコール県民セミナー準備会（奈良県断酒連合会）	10回
奈良いのちの電話協会自殺予防連絡会	1回

## 5 精神医療審査会の開催

精神医療審査会は、公平かつ専門的な見地から、医療保護入院者の入院届並びに措置入院者及び医療保護入院者の定期病状報告の審査と、精神科病院の入院者からの退院・処遇改善の請求の審査を行います。平成29年度の審査状況は、表8のとおりです。

表8 精神医療審査会審査状況

区 分	届出等の 件 数	審 査 件 数	審 査 結 果						取下げ	退院等の 審査要件 の消失	審査中	未審査
			入院等は 適 当	他の入院形 態への移行 が適当	入院継続 不 要	入院は 不 適 当	処遇は 不 適 当	計				
医療保護入院者の入院届 (法第33条第1項)	2,240	1,993	1,993	0	0			1,993	0	0	247	0
定 期 の 病状報告	措置入院者	4	4	4	0	0		4	0	0	0	0
	医療保護入院者	899	807	807	0	0		807	0	0	92	0
退 院 の 請 求	措置入院者	9	6	5	1	0		6	3	0	0	0
	医療保護入院者	61	37	36	1	0		37	9	5	10	0
処 遇 改 善 請 求	措置入院者	2	2	2			0	0	2	0	0	0
	医療保護入院者	13	10	9			0	1	10	1	0	2
	任意入院者	0	0	0			0	0	0	0	0	0
合 計	3,228	2,859	2,856	2	0	0	1	2,859	13	5	351	0

※審査結果の計＝届出等の件数。審査件数については審査により「保留」となった場合も計上しているため、審査結果の計と同数になっていません。

## 6 精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療(精神通院)の交付

精神障害者保健福祉手帳は、一定の精神障害にあることを認定して交付することにより、精神障害者の社会復帰、社会参加の促進を図ることを目的としている。また、自立支援医療(精神通院)は、治療のため、通院による精神医療を継続的に要する病状にある方に対して医療費の自己負担を軽減する制度。

平成29年6月末現在の精神障害者保健福祉手帳所持者数と、自立支援医療(精神通院)受給者数及びその詳細は、表9及び表10、表11のとおりです。

表9 精神障害者保健福祉手帳所持者数 平成29年6月末現在

等級	1 級	2 級	3 級	合計
精神障害者保健福祉手帳所持者数	1,420	6,080	2,383	9,883

表10 自立支援医療(精神通院)受給者数 平成29年6月末現在

保険種別	社会保険		国民健康 保 険	後期高齢者医療	生活保護	その他	合計
	本人	家族					
受給者数	2,357	3,311	7,269	942	2,467	0	16,346

表11 自立支援医療 ICDコードカテゴリ別受給者数 平成29年6月末現在

ICDカテゴリ	コード	給付決定件数
症状性を含む器質性精神障害	F0	699
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	F1	516
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	F2	5,219
気分障害	F3	6,265
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	F4	1,299
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	F5	63
成人の人格及び行動の障害	F6	99
精神遅滞	F7	173
心理的発達の障害	F8	591
小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	F9	282
特定不能の精神障害	F99	0
てんかん	G40	1,140
計		16,346

## 7 自殺対策事業

奈良県では、平成29年度に誰も自殺に追い込まれることのない「健康な心で暮らしやすい奈良県」を実現するために「奈良県自殺対策計画」を策定しました。本計画に基づき、行政や関係機関、民間団体などが連携を図りつつ、保健、医療、福祉、教育、労働、法律等に関わる総合的な取り組みを実践し、地域の実情に応じたきめ細やかで効果的な対策を実施していきます。

### (1) 相談事業

#### ① 電話相談「なら こころのホットライン」

平成22年1月より専用回線「なら 自死遺族・こころのホットライン」を設置し、自死遺族のためのこころの相談を開始しました。平成22年4月からは自殺予防として「死にたい」と思うほどのつらい気持ちを抱えた方にも対象を拡げて電話相談を実施しています。

開設時間：平日9:00～16:00

	自死遺族	自殺予防	合計
相談延件数	4	589	593

#### ② 面接相談

面接により、週1回自殺予防相談、月1回自死遺族相談を実施しています。

	自死遺族	自殺予防	合計
相談者数	21	8	29
相談延件数	21	8	29

#### ③ 自死遺族への支援

自死遺族の方からの電話では、自助グループや当センターでの自死遺族支援に関する情報提供を求めて、電話をかけてこられる方がたくさんおられます。当センターでは、自死遺族の方に対する面接を行っています。また、奇数月第2月曜日に、「奈良いのちの電話」が行う自死遺族支援「よりそいの会あかり」の“グリーフスペースさくらい”を、自死のご遺族同士が語り合う場として提供しています。

※自死遺族支援“よりそいの会あかり”については[http://www.nara-inochi.jp/ml\\_6\\_1.html](http://www.nara-inochi.jp/ml_6_1.html)を参照下さい。

#### ④ ハローワークでほっとコーナー

ハローワーク2か所で、週1回弁護士を派遣し、こころの相談を実施しています。

	実施時期	相談者数	相談延件数
ハローワーク奈良	金曜日 13:00～16:30	58	58
ハローワーク大和高田	水曜日 13:00～16:30	58	76

### (2) 自殺予防に関わる人材養成研修

#### ① 「若者のこころの健康」シンポジウム

実施日	平成29年10月21日		
会場	帝塚山大学 学園前キャンパス		
参加者	帝塚山大学の学生とその家族、教育関係者、一般住民、相談支援機関の職員など 合計約50名		
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンポジウムテーマ 「若者のこころの健康」シンポジウム SNSをめぐる対人関係－LINE・Twitterからつながる自殺－</li> <li>・シンポジスト 加古川市教育委員会 学校支援カウンセラー 阪中順子先生 NPO法人Light Ring. スタッフ 白井龍太先生</li> <li>・コーディネーター 帝塚山大学こころのケアセンター長 神澤 創 先生</li> </ul>		

② 学内ゲートキーパー研修

実施日	平成30年3月23日
会 場	帝塚山大学 学園前キャンパス
参加者	大学職員、学生 合計20名
内 容	講義「帝塚山大学学内ゲートキーパー研修」 講師：帝塚山大学こころのケアセンター長 神澤 創 先生 帝塚山大学学生サークル ぷりべんしょん

(3) 啓発事業

① ゲートキーパーパネル展示

広く県民にゲートキーパーについての理解を深めてもらうことを目的とし、以下のとおり、ゲートキーパーパネル展を実施しました。

実施日	平成29年4月23日
会 場	帝塚山大学 学園前キャンパス
内 容	・ゲートキーパーに関するパネルの掲示（10枚） ・普及啓発グッズ(ティッシュ、A4ファイル、ならこころのホットライン啓発カード、リーフレット)の配布 ・ゲートキーパーに関するDVDとNHKにて放映された映像を、DVD視聴コーナーにて放映した。

実施日	平成29年8月17日～31日
会 場	県政情報サロン
内 容	・ゲートキーパーに関するパネルの掲示（10枚） ・普及啓発グッズ(ティッシュ、A4ファイル、ならこころのホットライン啓発カード、リーフレット)の配布

実施日	平成30年3月6日～11日
会 場	奈良県図書情報館
内 容	・ゲートキーパーに関するパネルの掲示（10枚） ・普及啓発グッズ(ティッシュ、A4ファイル、ならこころのホットライン啓発カード、リーフレット)の配布

② デジタルサイネージの放映

平成29年4月～平成30年3月にかけて、「ゲートキーパー」「ならこころのホットライン」「ハローワークで無料法律相談」の内容を盛り込んだデジタルサイネージの放映を行いました。

実施日	平成29年4月～平成30年3月の間（随時放映）
会 場	奈良県庁エレベーターホール 奈良春日野国際フォーラム 薨～I・RA・KA～、イオンモール大和郡山 JR王寺駅、奈良県立医科大学附属病院



②関係機関・民間団体等主催のゲートキーパー講座開催状況

関係機関名	H24、25年度		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度	
	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
県民フォーラム	1	120								
奈良県庁内連絡会担当者	2	44								
奈良県教育委員会	1	45							1	150
奈良県立朱雀高校					1	57			1	110
奈良県職員（安全衛生担当者）			1	116	1	102				
奈良県消防学校			1	56	1	45	1	45	1	50
奈良県理容生活衛生同業組合	2	178								
奈良県美容職業訓練協会	1	32								
奈良女子大学	1	30								
奈良県宗教者連帯会議	1	19								
奈良県警察学校	1	16	1	15						
下市郵便局	1	28								
ハローワーク下市	2	11								
大和郡山市地域包括支援センター			1	50			1	21		
白鳳短期大学			1	37	1	43	1	41	1	40
合計	13	523	5	274	4	247	3	107	4	350

平成29年度は、39市町村中7市町村で、合計8回のゲートキーパー養成講座が開催され、360名のゲートキーパーが養成されました。また、関係機関でも5回のゲートキーパー養成講座で、350名のゲートキーパーが養成されました。ゲートキーパー養成講座を開催した市町村は県内36市町村にのぼっており、ほとんどの市町村でゲートキーパー養成講座が開催されています。

③ゲートキーパー指導者養成研修

平成24年8月に自殺総合対策大綱が見直され、地域での実践的な取り組みの必要性が掲げられ、各地域での人材育成や事業展開が求められたことを受け、平成25年度から、各地域でゲートキーパーを養成する「ゲートキーパー指導者の育成」を行っています。

ゲートキーパー指導者養成研修は、平成29年度に1回開催し合計13名が受講しました。

市町村名	H26年度		H27年度		H28年度		H29年度	
	受講者数	指導者登録者数	受講者数	指導者登録者数	受講者数	指導者登録者数	受講者数	指導者登録者数
奈良市	1	1			1		4	2
大和高田市	4	8	2		1		1	
大和郡山市		2	2		3			
天理市	2	2	1		1		1	
橿原市	2		1					
桜井市	5	1						
五條市	2	3					1	
御所市					2		2	
生駒市	1		1		1			
香芝市	5	3					1	
葛城市								
宇陀市					1			
山添村								
平群町								
三郷町								
斑鳩町		1						
安堵町								
川西町								
三宅町							1	
田原本町	1	1	1				1	
曾爾村								
御杖村	1						1	
高取町								
明日香村								
上牧町	1							
王寺町								
広陵町		2			1			
河合町								
吉野町		2						
大淀町		2			3	1		
下市町								
黒滝村								
天川村								
野迫川村								
十津川村			1					
下北山村					1			
上北山村								
川上村	1							
東吉野村								
合計	26	28	9	0	15	1	13	2

\*指導者登録者数とは、ゲートキーパー指導者として活動出来る方を示す

(5) 自殺未遂者支援

自殺のハイリスク者といわれる自殺未遂者への対策は、自殺を未然に予防するために重要な課題のひとつです。人材育成や関係機関との連携により、自殺未遂者への支援体制を構築することを目指し、研修を実施。

内 容	開 催 日	参加人数	対 象
自殺未遂者支援研修 講義：「自殺身者支援の現状及びリスクアセスメントとについて」 講師：奈良県立医科大学 精神医学講座 岡村和哉氏	平成 29 年 11 月 30 日	16 名	県内市町村、保健所、その他相談支援事業所職員

## 8 薬物依存症対策事業

### 薬物依存症治療回復プログラム

平成 28 年度より薬物依存症者の回復を支援するため、全国で先行実施例のある『SMARPP』を活用した集団による回復プログラムを実施しています。平成 29 年度の日程及び参加者は以下のとおりです。

開催日	テーマ	参加者数
8月 9日(水)	なぜ薬物をやめなければならないの？	3名
8月23日(水)	引き金と渴望	3名
9月13日(水)	あなたのまわりにある引き金について	3名
9月27日(水)	あなたのなかにある引き金について	3名
10月11日(水)	スケジュールをたてよう	4名
10月25日(水)	依存症ってどんな病気？	1名
11月 8日(水)	回復の地図	3名
11月22日(水)	再発の正当化	1名
12月13日(水)	再発を防ぐには	2名
12月27日(水)	回復のために-信頼と正直さ-	2名
1月10日(水)	コミュニケーションスキルアップ	5名
1月26日(水)	レクリエーション	4名
2月24日(水)	強くなるより賢くなる	3名
		延37名

## 9 調査研究

今後の相談体制の充実を図るため、当センター「ならこころのホットライン」の受電状況の詳細を分析しました。

\*統計のデータは平成25年4月～平成30年3月の数値（延べ）です。

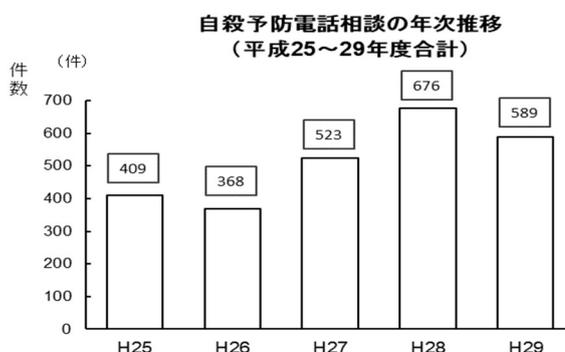
### 自殺予防に関する相談内訳

#### ①相談者数の年次推移（図1）

ホットラインへの相談電話（自殺予防）は、平成25～29年度の5年間で2562件でした。そのうち面接相談につながったのは24件（0.9%）でした。また、平成29年度では、589件の電話相談のうち、2件（0.3%）でした。

平成25～29年度の相談者数の推移をみると、平成26年度に相談件数の減少が見られましたが、その後は増加に転じ、平成29年度は再び減少しています。

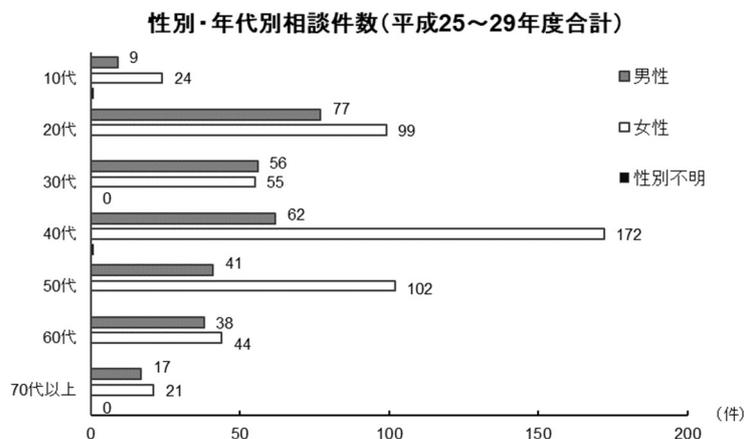
図1



#### ②相談者の性別・年代別内訳（図2）

過去5年間（平成25～29年度）の相談電話2565件の内訳は、性別では男性854件（28.9%）、女性1407件（57.4%）、性別不明301件（13.7%）でした。年代別では、男性は20代（9.0%）が最も多く、次いで40代（7.3%）となっています。女性では、40代（12.2%）が最も多く、次は50代（7.2%）という結果になっています。なお、性別不明には無言電話等で性別を識別できない方が含まれています。

図2



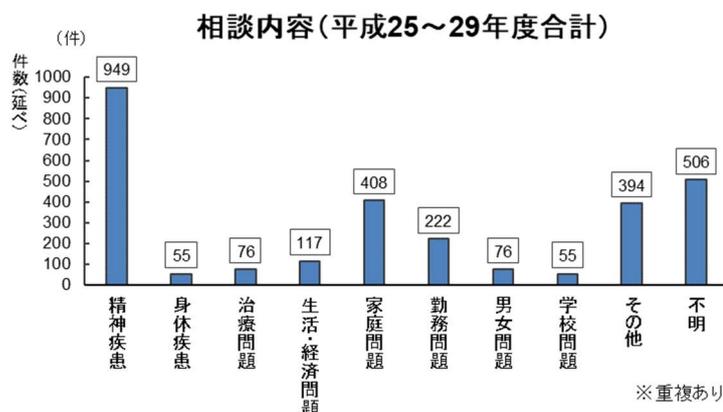
※年代不明者を除く

### ③相談内容（図3）

相談内容は相談種別ごとに計上し、一人の相談者の相談内容が複数に及ぶ場合には、主たる内容と考えられるものを2つまで計上しました。

主に図3のとおり相談種別の順位では、「精神疾患」が949件（33.2%）と最も多く、次いで「家庭問題」408件（14.3%）、「勤務問題」222件（7.8%）となっています（その他、不明を除く）。

図3



### ④自殺念慮及び自殺未遂歴（表12、13）

平成25年度から、自殺リスクの評価についての精度を高める為に、以下の11の自殺の危険因子をもとに自殺念慮の程度を判定しました。

①過去の自殺企図・自傷歴、②喪失体験、③苦痛な体験、④失業問題・経済問題・生活問題、⑤精神疾患・身体疾患の罹患およびそれらに対する悩み、⑥ソーシャルサポートの欠如、⑦自殺企図手段への容易なアクセス、⑧自殺念慮・希死念慮、⑨望ましくない対処行動、⑩危険行動、⑪その他、のうち当てはまる因子が2～3の場合を自殺リスク軽度、3～5を中等度、6～8を高度、9以上を重度と判定しています。

過去5年間の相談電話における自殺リスクでは、念慮あり（リスク高）が17件（0.7%）、念慮あり（リスク中）が146件（5.7%）、念慮あり（リスク低）が1,424件（55.5%）となっています。また、自殺未遂歴については、「あり」と答えた方は124件（5.0%）でした。

表12 自殺念慮（平成25～29年度）

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	合計
念慮あり(リスク高)	5	3	4	3	2	17
念慮あり(リスク中)	22	26	45	29	24	146
念慮あり(リスク低)	217	244	274	258	431	1424
不明	165	95	200	386	132	978
合計	409	368	523	676	589	2565

表13 自殺未遂歴（平成25～29年度）

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	合計
自殺未遂歴あり	23	22	29	37	13	124
自殺未遂歴なし	138	259	299	54	17	767
不明	248	87	195	585	559	1674
合計	409	368	523	676	589	2565

自殺未遂歴「あり」（124件）のうち、念慮あり（リスク高）及び念慮あり（リスク中）と判定された割合は、約8割を占めています。また、自殺未遂歴「なし」（767件）においても、念慮あり（リスク中）及び念慮あり（リスク低）と判定された割合も約8割を占めています。

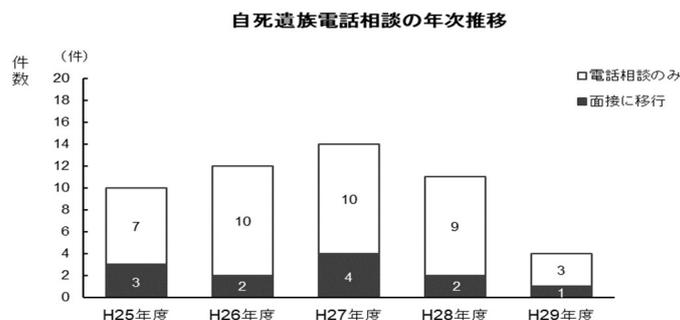
## 自死遺族に関する相談内訳

### ① 相談者数の年次推移 (図4)

ホットラインの相談電話(自死遺族)は、過去5年間で51件でした。そのうち面接相談につながったのは12件(23.5%)でした。また平成29年度では、4件の電話相談のうち1件(25.0%)でした。

過去5年間の相談者数の推移をみると、平成25年度に一旦減少し、それ以降増加傾向にありましたが、平成28年度以降は再度減少しています。

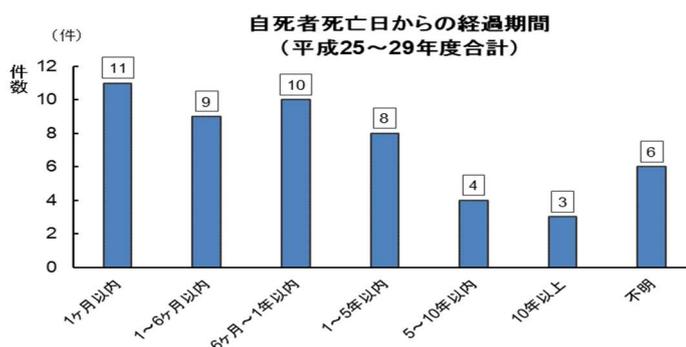
図4



### ② 自死遺族の方からの来電までの経過期間 (図5)

自死者が亡くなられてから、電話相談に至るまでの期間は1年以内が30件(58.8%)で、うち1ヶ月以内が11件(21.6%)でした。

図5



## まとめ

これまで、5年間に及ぶホットラインに寄せられた相談の特徴について述べてきました。延件数2,565件(自死遺族の相談件数も含めると2,616件)もの相談を受けており、相談内容としては、うつ病などの精神疾患に関するものが最も多く見られましたが、その中でも多様な要因が混在していることが明らかになりました。特に自殺リスク評価を見ると、自殺未遂歴のある方は高リスクである方が約8割を占めるなど、未遂者への支援体制を整えていく必要があります。

ホットラインでは、自死遺族や自殺を考えるほど悩んでいる方を対象としていますが、それ以外に日常に生きづらさを感じている方からの電話も多く、ホットラインに求められていることも多岐にわたります。今後より一層相談体制の整備をはかり、周囲の理解を促すなど啓発活動に取り組んでいくことが必要であると考えられます。

## 奈良県精神保健福祉センター所報（平成29年度）

---

平成30年4月発行

編集・発行 奈良県精神保健福祉センター  
〒633-0062 奈良県桜井市粟殿1000

電話：0744-43-1474

FAX：0744-42-1603

Email：seishin-hw@office.pref.nara.lg.jp